

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670700939
法人名	十和建设株式会社
事業所名	認知症高齢者グループホーム「和心ふじ荘」
訪問調査日	平成 20 年 11 月 21 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 7 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	670700939
法人名	十和建设株式会社
事業所名	認知症高齢者グループホーム「和心ふじ荘」
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市八色木字西野335-1 (電話) 0235-78-2620

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年11月21日	評価確定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】(平成20年10月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 1 月 17 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	16 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 15.2 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造平屋ステンレスぱり	造り
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000~33,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無○	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2			名
年齢	平均 84 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石橋内科胃腸科医院 笹花常世歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

敷地内にホームが所有する畑があるため、季節の野菜を育てては収穫し、その喜びを利用者と職員が一緒に感じながら、採りたての野菜を使った「旬の料理」を楽しく味わうことができます。地域との関わりがとても大切であると考えており、地域住民の一員としての活動、また、地域に開かれた事業所にしていくための活動を進めてきています。「自分が認知症になったら入りたいグループホーム」を目指して、運営者、管理者、職員が協力し、全員でサービスの質の向上に取り組んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 利用者や家族の思いや意見を聞き、各ユニットのケース会議で職員の意見やアイデアを出し合って、利用者がその人らしく暮らしていける介護計画となるよう、職員全員が協力しながら作成されている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、自己評価及び外部評価を実施する意義とその活かし方を職員に伝え、理解を得ながら全職員で今回の自己評価に取り組んでいる。また、前回の評価で出された課題については、施設長、管理者が中心となり、全職員が全力で改善に取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月ごとに、利用者の家族や家族会会長、町内会長、民生委員、婦人会長、老人クラブ会長、市の担当者が出席して行われており、ホームから入居者の状況や行事、外部評価の結果について報告を行い、参加者から意見や要望などを聞いてサービスの向上につなげている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時に意見を出してもらえる雰囲気づくりを心がけており、要望や相談を受けられるようにしている。また、苦情処理担当者を設置したり、家族会を開いたりして、家族が意見や苦情を言い出しやすいようにしている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の一員として自治会に加入しており、お祭りや文化祭、運動会など地区の行事に積極的に参加している。また、近隣の子供達が気軽にホームに遊びに来たり、小学生や大学生、一般のボランティアの受け入れを行っており、地域住民との交流は盛んに行われている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、また、地域に信頼されるグループホームを目指すという理念を、職員全員でつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼やミーティング、全体会議の時に必ず理念に触れ、話し合っ確認し、理念を実践できるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入しており、お祭りや文化祭、運動会など地区の行事に積極的に参加している。また、近隣の子供達が気軽にホームに遊びに来たり、小学生や大学生、一般のボランティアの受け入れを行っており、地域住民との交流は盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、自己評価及び外部評価を実施する意義とその活かし方を職員に伝え、理解を得ながら全職員で今回の自己評価に取り組んでいる。また、前回の評価で出された課題については、施設長、管理者が中心となり、全職員が全力で改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに、利用者の家族や家族会会長、町内会長、民生委員、婦人会長、老人クラブ会長、市の担当者が出席して行われており、ホームから入居者の状況や行事、外部評価の結果について報告を行い、参加者から意見や要望などを聞いてサービスの向上につなげている。		

山形県 認知症高齢者グループホーム「和心ふじ荘」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者には、ホームの入居状況や運営について伝えており、アドバイスを受けて、情報交換を行いながら、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの暮らしぶりや健康状態は手紙でそれぞれの家族に伝えられ、金銭管理状況は領収書等と利用明細のコピーを送って報告されている。また、職員の異動は、家族会の集まりの時に報告されている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時に意見を出してもらえる雰囲気づくりを心がけており、要望や相談を受けられるようにしている。また、苦情処理担当者を設置したり、家族会を開いたりして、家族が意見や苦情を言い出しやすいようにしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者と職員が馴染みの関係でいられるように、職員は固定化している。やむなく交代する場合は、利用者への説明を行い、職員間の引き継ぎを十分行うことにより、利用者のダメージを防ぐよう配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修及び勤務年数や経験に応じた、外部研修を計画的に実施している。また、研修内容の全体会議での報告や報告書コピーの配布、閲覧も行われている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム同士の相互訪問や見学が行われており、また、グループホーム協議会の研修会や市福祉課の研修にも参加して、サービスの質の向上を目指している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「干し柿」や「なす漬け」などの昔ながらの作り方を、人生の先輩である利用者から教えてもらっている。また、利用者の昔の職業や戦争体験などの話から、生活や文化の大切さを教えてもらう場面もあり、互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人の希望や意向を聞いており、日々の暮らしの中の会話や表情からも、一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。また、困難な場合には、本人をよく知る家族等からも情報を得て対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意見を聞き、各ユニットのケース会議で職員の意見やアイデアを出し合っ、利用者がその人らしく暮らしていける介護計画となるよう、職員全員が協力しながら作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直されており、また、見直し以前に状態に変化があった場合には、居室担当者、ケアマネジャー、管理者との相談やケース会議での検討を行い、本人や家族の意見を取り入れた、現状に即した新たな計画が作成されている。		

山形県 認知症高齢者グループホーム「和心ふじ荘」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診付添は家族が通常は行っており、本人や家族が希望する、馴染みのかかりつけ医に受診できている。また、緊急時や家族の都合のつかない場合の職員対応や受診内容の伝達、歯科医の往診も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針が作成されており、家族、かかりつけ医、看護師等を交えた話し合いが繰り返し行われ、全員で方針を共有できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉づかいや人前での対処の仕方など、利用者の誇りやプライバシーを損ねないような対応について、職員会議、朝礼、ミーティングなど、折に触れて確認している。また、記録やメモは利用者の目の届かない所でするようにしており、個人情報の取り扱いについても十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の大まかな流れはミーティングの中で確認されているが、朝起きるのが遅い方の朝食は遅らせて提供する、入浴の順番の希望を聞くなど、その日の状態や気持ちを大切に支援が行われている。		

山形県 認知症高齢者グループホーム「和心ふじ荘」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が育てた新鮮な野菜を食材に取り入れ、準備や後片付けを一緒に行いながら、利用者と職員が同じものを同じテーブルで楽しく食べることができている。また、希望献立日を毎月設けたり、誕生月の利用者の希望を取り入れることも行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が希望する曜日や順番を聞いて入浴してもらっており、鳥海山と月山も眺めながらの入浴は、利用者の楽しみの一つになっている。また、入浴を拒む利用者についても、職員の言葉がけや対応の工夫で一日おきの入浴が確保されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や鉢植えの管理、干し柿作り、なす漬け作りなどで、利用者の知恵や経験を發揮してもらっている。また、塗り絵やゲーム、歌、読書や計算ドリルなどで、今ある力を更に活かしてもらい、楽しみや気晴らしの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望やその日の天気により、畑仕事や散歩、買い物、外食などに出かけている。また、梨狩り、ダリヤ見学、チューリップ見学なども行われており、利用者に季節を肌で感じてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	職員の見守りとチャイムの設置により、日中は玄関に鍵をかけない自由な暮らしが支援されている。また、地域の方の理解も得られており、外出者に対する声かけや連絡をしてもらえる関係ができている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急のマニュアルがあり、消火器の使い方や避難訓練、避難経路の確保を含む総合訓練が消防署の協力を得て、年2回行われている。また、非常時に備えた食品や飲料水など備品の準備も行われている。		

山形県 認知症高齢者グループホーム「和心ふじ荘」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分量は大まかに把握されており、また、管理者が栄養士であるため、おやつを含む一日の栄養のバランスがよく考えられ、一人ひとりの状態や力に応じた支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が多くの時間を過ごす居間は、天井の明かり取りからやさしい光が差し込み、大きな窓から見える外の風景が季節を教えてくれる。壁には季節感のある装飾や利用者の作品が飾られ、見やすい位置にカレンダーと時計が掛けてある。また、食事の時間が近づくとき食器の音やご飯とおかずの香りがしてくる、生活感のある空間にもなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは自由であり、利用者が使い慣れたタンスやテーブル、好みの写真や花、馴染みのテレビや仏壇などが持ち込まれ、一人ひとりの利用者が快適に過ごせる場所となっている。		